

第14回十日町市中心市街地活性化協議会 議事録（要旨）

【日 時】	平成30年8月21日（火）	午後3時00分～午後4時30分
【場 所】	ラポート十日町 白鳳	
【出席者】	委 員	24名
	事 務 局（会議所）	5名
	事 務 局（市担当係）	5名
	報 道 等	9名
	合 計	43名

1. 開会挨拶：十日町市中心市街地活性化協議会会長 丸山秀二

【説明者】：事務局長・池田則夫（十日町商工会議所専務理事）

協議会委員の中で所属団体・役職、代表者の変更があったことを名簿を基に説明した。

2. 報告

(1) 基本計画に搭載された主要事業の報告

①十日町市 【説明者】：市担当（藤巻・都市計画課長）

二つのポイントを設けて事業を実施した。一つ目のポイントは「民間活力を導入した官民融合の投資促進」として、「アップルとおかまち」と「いこて」を整備した。二つ目のポイントは「過去とは違う新たなにぎわいの創出」として、市民活動センター「十じろう」と市民交流センター「分じろう」を整備した。

（資料を基に、その他の施設整備や事業費等について報告）

②民間事業者

・アップルとおかまち 【説明者】：㈱ファイン・テン（村山義政）

8月6日現在の全体入居率は63%。そのうち「サービス付き高齢者向け住宅」（2階～4階）は66%。「一般住宅」（5階）は50%。5階も「サービス付き高齢者向け住宅」だと誤解されている方も多く、理解を得られていないことが5階の入居率が上がらない原因だと考えている。

入居率の向上対策、町内住民や近隣商店街との連携不足は否めなく、「サービス付き高齢者向け住宅」施設の更なる体制作りと「アップルとおかまち」の運営会社としての基盤作りに課題もあり、なお一層の努力が必要である。

・十日町産業文化発信館「いこて」 【説明者】：十日町産業文化発信館「いこて」（藤田真理子）

現在、大地の芸術祭の影響もあり多くの方にお越しいただいている。毎日150名以上の来客。

市外、県外、海外（特に香港と台湾）の方からもお越しいただいている。

生産者の顔が見える食事を大切にしている。生産者の方からイベントをやりたいという声をいただいております。妻有ポークの生産者の方のイベントを何回か行っている。

- ・NPO法人にぎわい **説明者**：NPO法人にぎわい（樋熊秀行・事務局長）

（資料を基に、平成25年度から平成29年度の活動を報告）

次年度より市からの委託事業がなくなることもあり、今年度の3月31日で活動を終了する予定である。これまで活動してきた盛り上がってきた事業もあるので、そういった事業を各団体に引き継いで更に伸ばしていただければと考えている。

- (2) 中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップ報告 **説明者**：市担当（藤巻・都市計画課長）

中心市街地活性化基本計画は、「暮らす人を増やす」「訪れる人を増やす」「活動する人を増やす」といった三つの数値目標を掲げて行った。

「暮らす人を増やす」（人口の社会動態）については、目標値及び基準値にも及ばなかったため、達成状況を「C」とした。「訪れる人を増やす」（歩行者・自転車通行量）については、目標値及び基準値にも及ばなかったため、達成状況を「C」とした。「活動する人を増やす」（文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数）については、目標値を大きく超えたため、達成状況を「A」とした。

平成25年6月に認定されて4年9か月の間、民間事業者と行政とでソフトとハードを織り交ぜながら様々な取り組みを行ってきた。街づくりは認定期間の終了で終わりではなく、今後も知識やノウハウを生かして引き継いでいくことが大切。

3. 協議事項

- (1) 中心市街地活性化協議会の今後のあり方について **説明者**：事務局長・池田則夫（十日町商工会議所専務理事）

中心市街地活性化協議会支援センターによると、協議会の存続期間と基本計画の期間は連動していないとのこと。また滋賀県大津市の調査では、基本計画が既に終了した自治体のうち8割近くが協議会を存続させているとのこと。以上の理由から存続した場合に弊害や経費負担がないということなので、当協議会の存続を提案する。

この提案に対して委員からは異議がでなかったため、存続することを決定した。

- 4. 閉会挨拶：十日町市中心市街地活性化協議会副会長 関口純夫